

りんりんふえす2018

記念冊子

sing with your neighbors

りんりんふえす THE BIG ISSUE
Support Live
vol.9



マレウレウ/坂口恭平/東郷清丸/ふちがみとふなと

アラゲホンジ/寺尾紗穂+新人Hソケリッサ!

「その先」を考える

寺尾 紗穂

この4月から小学校PTAの役員をしている。最初は何らかの改革の種をまけないか、と期待を持って、新学期が始まる前から会長に会って話したり思いを伝えたりしていた。会長も男性だったが、なかなか話のできる人で、この会長の下だったらなんらか変革が起こるのでは、といくらか希望を持っていた。

しかしそうは問屋がおろさなかった。役員は全員で10人いて、なかなか慎重派も多かったのだ。改革への意思を持った人が少ないわけではなかった。しかし、生真面目に仕事のできてしまう人ほど、ただでさえこれだけの負担が重いのに、これ以上新しいことは無理です、と慎重意見とデメリットを並べ、全体の空気はどうしてもそちらに流れる感じがあった。

低学年ほど発達障がいがあったり、クラスになじみきれない子が多く、母親が働いている家庭の中には、朝、子どもを引きずって学校にくるお母さんもいるということだった。昼間一人で家に残すわけにも行かず、引きずってあるいは引きずられて始まる朝は親子にとってどれほど憂鬱だろうと想像しただけでもつらい気持ちになった。不登校できる状況ならばまだいいが、それが叶わない状況もあるのだ。

そうした母子の現状を痛感しているのは学校側でもあって、ぜひPTAでお母さんたちが気軽に相談したりお茶できるような時間を月に一度でも開くことはできないかという内々の打診もあった。

私もそんな場があったらぜひ関わりたいと思い、共感してくれる役員と役員全体に投げかけたこともあったが「相談のプロでもないのに無責任なことは受けられない」という意見が強く、相談窓口としてメールアドレスを作ることについても「極端なことを言うてくる人にいちいち対応するのは大変」といった調子で、やはりPTAとして動くことは難しそうだった。

「相談のプロではないのに」

という言葉は私の中でひっかかかっていて、それだから面倒くさい事態を引き起こす可能性もわかったけれども、でもプロでないからこそ同じような立場で話を聞いてあげられる可能性もあるはずだと思っていた。誰かに話してみる、それだけで心のこわばりが緩んだり、少し明るい気持ちになれる、ということとは誰にでも経験があると思う。

そんな折、『親子の手帳』という本を出した鳥羽和久さんと下北沢B&Bでトークをする機会があり、その中で、人と人がつながることについて話したことがあった。トークの最後に会場から質疑などを受け付けると、その中の一人の女性が、現在「おつかれさま」といって気軽に立ち寄れる夕飯会を開催していると発言してくれた。帰って一人で夕飯を食べる人たちも月に一度そうやって緩やかに集えるような場所、しかも食が絡んでいる。

終了後にその人に詳しい話を聞いていくと、その方は傾聴トレーニングなどの研鑽を積んだ方だという。そんな素敵な講習があったら私も受講してみたいと感じた。「相談のプロではないのに」という人達に少しでも納得してもらおう一つの手段だな、とも思った。

私は去年のりんりんふえすの座談会で、一人で暮らしている人、すべての人の誕生日を祝ってあげられるような社会にならないだろうか、と発言した。夕飯会の開催は、その実現の難しそうな夢をかなえる一歩のようにも思える。

「今月のお誕生日のお友達は…」と大勢に祝ってもらった記憶は幼稚園や保育園時代、多くの人にあると思うが、そういうことが小さな集いの中であっていいことだと思う。誰にも「おめでとう」と言われたい誕生日を送る人もいるかもしれないということ、そういう人にさりげなく輪を開いていくこと、想像して動いてみる、ということのをこれから考えたい。

8月に知人のライターが62歳で死んだ。佐野元春さんについての本を執筆途中だった。状況が整っていれば、もっと生きられた命だったと思う。中高年のクレマーの増加が社会的にも注目され、その原因に孤独があるようだ、ということが指摘され始めている。

彼は別にクレマー気質ではなかったが、孤独を愛するようになって、静かに孤独と戦っていた人だった。大動脈乖離という病気で入退院を繰り返して、最後は手術に耐えうる体力がなく、戻る見込みもないということで「食事が命綱ですからね」と言われて病院を出された。

男の一人暮らし、しかも入院中の日々のクリーニング代がかさんで分割で返す必要があり、退院後の家計を圧迫した。病院にコインランドリーがないことのおかしさを、洗濯物を持ち帰って、持ってきてくれる家族がいる人間にはなかなか想像できない。困るのは貧しい単身者だけだから声は上にあがっていかない。

もともと自炊をほとんどしない彼が、入院中より体重を落としたことは想像に難くなかった。墨田など何箇所かに展開している「ふるさとの会」など食事をきちんと出してくれるところに入居してみれば、とも提案した。落ち着いたら見学に行こうという話もしていたが、最終的には、長年一人暮らしで物書きの彼には相部屋は考えられないようだった。

孤独が好きなんだったらほうっておけばいい、という意見もあるだろう。けれど、本当に孤独になったとき、人は孤独を楽しむことなどできないと思う。彼が死を迎えるまでのやりとりを通して、私はこういう人がそれでも、誰かとつながって生きていける仕組みについて考え続けることになった。

「誰からも連絡がこないと暗い気持ちになる。こうやって声をかけて心配してもらえると安心します」

彼が人として当たり前の言葉をもらしたとき、孤独を愛する人の、愛しきれなくなった孤独がパソコンの画面からにじんできた。

素敵な出会いもあった。人を結びつけるものは食だ、と食いしん坊の私は最初から思っていた。けれど、自分がそうした場を作って食を含めた中心にい続けるというのは大変なことだとも思った。仲間を探したい、できれば一緒にそういう中心を作って任せることもできそうな人。願い続けているとそういう人が現れる。

5月5日丸木美術館のライブで当日のボランティアスタッフの中に、やはりひそかに福祉と社会のことを考え続けている女性がいたのだ。面白いことにその人はやたらに南洋やパラオに詳しい人として現れた。当然丸木俊さんの話題になる。ちょうどライブの翌日まで東中野のポレポレ座で俊さんの絵本展が開催されるということだったので、なんとなく行ってみましょうということで、翌日も彼女にお会いした。

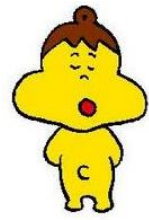
坐のカフェで話し込んでみると、私が問題に思っていることの全てを彼女も共有しており、さらに豊富な知識を集め考え続けている人だった。

「私、下宿のおばちゃんになってもいいと思ってるんです」

と彼女が言ったとき、こういう人に出会いたかった、と思った。りんりんふえすは来年で最後を迎えるけれど、この実行委員会でめぐり合えたすばらしい仲間たちや、彼女のような人を巻き込みながら「その先」を考えていきたい。

今年もご来場ありがとうございます。

りんりんふえす2018 出演アーティスト



東郷清丸



「きょうの空気を目いっぱい吸い込んで帰ろうと思います」

マレウレウ



「はじめまして！りんりんふえすに参加出来る事を嬉しく思います！ウコウク(輪唱)でグルグルにな〜れ♪どうぞよろしくお願ひ致します」(マレウレウ レクポ)



ソケリッサ!

「メンバー小磯さん「りんりんふえす」を「りんりんフェスタ」と言います。そこに準じ我々はラテン的なエネルギーを根底として今回も躍動します」(ソケリッサ代表 アオキ裕キ)

坂口恭平



「僕は路上で暮らす隅田川のエジソンや多摩川のロビンソンクルーソーにいろんなことを教わって大きくなりました。今日は彼らと食事しながら歌ったりしていたことを頭に浮かべながら、みなさんと楽しめたらと思います。ハイヤ！ハイヤ！」

寺尾紗穂



ふちがみとふなと

「存在を知ってから初めてビッグイシューを買うまで、何年もの月日がありました。存在を知ってから何年目だろうりんりんふえす。出演できてうれしいです。この一日をたくさん感じようと思います」

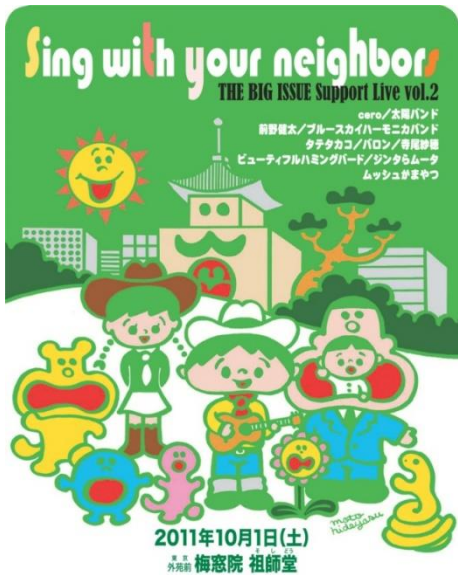


アラゲホンジ

「自分たちの知らない世界がまだまだたくさんあるんだな、そんな発見と喜びに溢れた楽しい一日になる予感がしています。みなさま今日はご来場有難うございます。最後までどうぞお楽しみ下さい！」(アラゲホンジ 齋藤真文)

これまでの軌跡(2011～2013年)

❁参加された皆さんの声



浅草の路上バンド「ブルースカイハーモニカバンド」観れてよかった。ミュージシャンやバンドマンは皆、一度はあのおじさんたちを体験するべきだと思う。音楽は気持ちでやるんだって教えてくれる。

駅から降りて、りんりんふえすの会場まで行く道すがら、案内看板を持っているビッグイシューの販売さんがいた。話しかけて、二言三言会話をしたが、言えなかった言葉を呟きます。

「ありがとう！迷わず来れました」

ソケリッサという路上生活者及び路上生活経験者によるダンスグループ。暗黒舞踏のようで目が離せなかった。涅槃を超えて極楽浄土に行ったら、こういう具合に人々が踊ってるのでは？と思えてならない

りんりんふえすの座談会、若年層ホームレスのはなし。知らなかったことたくさん。屋根があれば、部屋があればいいんじゃないんだな。ルーレスでもハウスレスでもなくて、ホームレス。



Sing with your neighbors
THE BIG ISSUE Support Live vol.3

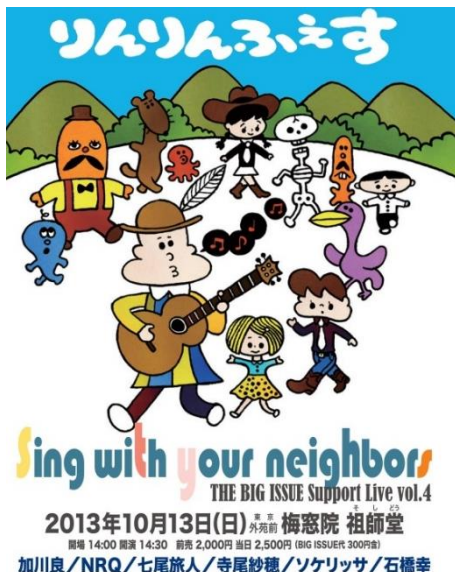
2012年10月6日(土) 外苑前 梅窓院 祖師堂

開場 14:00 開演 14:30 前売 2,000円 (税込・入場自由)

友部正人/片想い/寺尾紗織/木蓮/ソケリッサ/Broom Duster KAN/なざら健吾

1才娘と二人で行った。娘の昼寝時間と重なり徐々にゆっくり聞けた寺尾さんの歌で浄化された。七尾旅人さんのライブ時は起きた娘が遊んだりちょっと騒いだが、ステージから「子供が泣いてもいい」と言っておられて穏やかな気持ちでいられた。

仕事を見直す多彩な視点。自立生活サポートセンター「もやい」で働いている小野寺さんの笑顔と声がとても美しい。仕事をしている自分にはない笑顔。仕事、生活、人生、幸せ、人とのつながり、について、ちょっと考えてしまった



これまでの軌跡(2014～2016年)



THE BIG ISSUE Support Live vol.5

2014年12月7日(日) 東京 外苑前 梅窓院 祖師堂

開場 14:00 / 開演 14:30 / 前売:2,500円 / 当日:3,000円(BIG ISSUE 350円)

Gotch / 寺尾紗穂 / あたち麗三郎カルテット / 新倉社朗 / ソケリッサ / 三輪二郎

りんりんふえす、寺尾さんも再び登場、ソケリッサも出てきて、タケオも出てきて、踊る、叩く、歌う、揺れる、ステージも会場大フィーバー。走り、踊り、はじけるソケリッサ。タケオ、止まらない、止められない(笑)

炊き出しのおにぎりと豚汁が、とっても美味しかったです。特別なものではないのだろうけれど、ほっとする味。コーヒーとクッキーも、美味しかったです。パンは、おうち帰ったら食べます。皆さんの心遣いがとても嬉しかった。

「住まい」「つながり」「仕事」「いきがい」、幸せとはなんだろう。もしお金や場所や血縁などをすべて気にしない場合、ぼくらはなにを望むだろう。ぼくらはなにを選ぶだろう。りんりんふえすに来て、座談会を聞きながら考えています。

寺尾さんのピアノと歌に合わせてホームレスの方が自由な表現で踊る場面は美しく潤みました。ビッグイシュー販売員で馴染のおじさんがいるので、次はこのフェスの事話してみようと思います。



THE BIG ISSUE Support Live vol.6

sing with your neighbors

2015年10月4日(日) 東京 外苑前 梅窓院 祖師堂

開場 14:00 / 開演 14:30 / 前売:2,500円 / 当日:3,000円(BIG ISSUE 350円)

寺尾紗穂 / イルリメ / 柴田聡子 / とんちビクルス / テニスコート / ソケリッサ!



THE BIG ISSUE Support Live vol.7

2016年10月2日(日) 東京 外苑前 梅窓院 祖師堂

開場 13:30 / 開演 14:00 / 前売:2,500円 / 当日:3,000円(BIG ISSUE 350円)

寺尾紗穂 / マヒトウザ・ピーポー / ソケリッサ! / 原田郁子 / 知久寿焼 / 二階堂和美

「空間も音も良くて演者もすごくて多幸感ハンパない素晴らしいフェス」「座談会もとっても面白かったなあ」「6組も出演しているのに全員いいというのは滅多にない」「愛」「スタッフさん達の暖かさも他所ではないレベル」「子連れにあたたかいイベント」「子連れウェルカム感が嬉しすぎた」「いいライブの後は電車に乗らずに歩きたくなる」「出演者たちの歌や演奏や舞踏も、座談会も、お客さんも、子どもたちも、お坊さんも、梅窓院祖師堂も、スタッフのみなさんたちも、すべてにおいて素晴らしかった!」

今年のりんりんふえす感想



パンチの効いたアーティストばかりだったし、生まれてはじめてビッグイシューを手にしたし、炊き出しのおにぎりも春巻も美味しくて、なんというか、よい休日だったなあ。



今日は家族で音楽イベント「りんりんふえす」へ。泣きミソ0歳児とヤンチャ3歳児連れで度々会場外へ連れ出しつつも、結構ライブ観れました。娘は終始落ち着きなかったけど、寺尾紗穂のあと「この人の声とお歌好き」と言ったり、OKIのトンコリ(アイヌの楽器)演奏でメチャ踊ったりして楽しんでた。

最後全員でムッシュかまやつの「どうにかなるさ」のcover。ステージが明るく光り花が咲いたようだった。



今後、寺尾紗穂さんの「孤独な惑星」を聴くとき、オルゴールのように回るソケリッサと子どもたちのダンスを思い出さずにいることはできないなあ…あまりにも感動的だった。



いろんな音楽やパフォーマンス、座談会。パネラーの皆さんのそれぞれからの視点の老いのお話が興味深かった。便利になれば独りで生きて行くのは簡単だけど、いざ個人に有事が訪れた時の事なんかを考えさせられた。

座談会も、上手く言えませんが、こんなにあたたかい目線を持った大人の方々が、その目でもって社会を生き、このりんりんふえすを開いたりしているという事実が、私にとってこれ以上ないくらいの励みになりました。





有限会社 ビッグイシュー日本

ビッグイシューはホームレスの人々にモノやおカネではなく「チャンス」を提供する事業です。

『ビッグイシュー日本版』という質の高い雑誌をつくり、ホームレス状態にある人の独占販売とすることで、「ホームレスの人しかできない仕事」をつくっています。

1991年にロンドンで生まれ、日本では2003年9月に創刊しました。『ビッグイシュー日本版』をホームレス状態にある販売者が街頭で販売します。1冊350円の雑誌を売ると半分以上の180円が彼らの収入となるというしくみです。最初10冊は無料で提供し、その売り上げ（3,500円）を元手に、1冊170円で仕入れていただきます。

社会問題の当事者になった人がその問題解決の担い手になって初めて、その社会問題は解決されると私たちは考えています。販売者となった人たちは私たちのビジネスパートナー。このような考えで、私たちは日本を居心地のいい、チャンス「豊かな」社会に、そして安心して生きられる社会に変えたいと思っています。

街角でビッグイシュー販売者を見かけたら、ぜひお声をかけてみてください。



【URL】www.bigissue.jp

【本社】〒530-0003 大阪市北区堂島2-3-2 堂北ビル4階 【TEL】06-6344-2260

【東京事務所】〒162-0065 新宿区住吉町8-5シンカイビル201号室 【TEL】03-6802-6078



認定NPO法人 ビッグイシュー基金

『ビッグイシュー基金』とは、有限会社ビッグイシュー日本を母体に設立された非営利団体です。ビッグイシュー日本版創刊から約4年後の2007年に設立されました。ビッグイシュー日本の活動を通して、ホームレスの人々の自立には、就業を含めた総合的なサポートが必要であると考えたからです。

2008年4月にNPO法人の認証を、2011年には国税局から認定を受けました。これによりNPOビッグイシュー基金への寄付は税控除が受けられるようになりました。貧困問題という大きな氷山の頂点ともいえるホームレス問題の解決から取り組むことで、ビッグイシュー基金は、「失敗しても何度でも再チャレンジできる」「誰にも居場所と出番がある」社会の形成を目標として活動しています。

生活自立、就業、文化・スポーツ活動などの多面的なサポート事業を行うほか、生きやすい社会をととのえるため、ホームレス問題解決のネットワークづくりや政策提言活動や市民が活動に参加する機会の提供などを行っています。

ホームレス問題は、今、あなたのすぐ隣で起きている出来事です。そして、ホームレスという人種はどこにもいません。ホームレス状態におかれている人がいるだけなのです。

まず、路上で暮らす「人生をあきらめない」人たちの声に、耳を傾けてみてください。そして、生きやすい社会をつくるために、一人ひとりができることを一緒に考えてみませんか？



【URL】www.bigissue.or.jp

【事務局本部】〒530-0003大阪市北区堂島2-3-2 堂北ビル4階 【TEL】06-6345-1517

【東京事務所】〒162-0065新宿区住吉町8-5シンカイビル201号室 【TEL】03-6380-5088



一般社団法人 つくりい東京ファンド

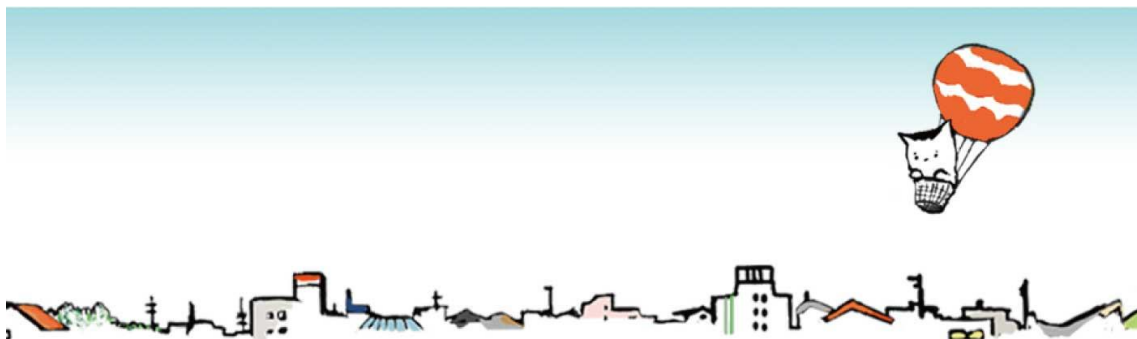
一般社団法人つくりい東京ファンドは、2014年6月、東京都内で生活困窮者の支援活動をおこなってきた複数の団体のメンバーが集まり、設立されました。代表理事は、認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやいの前理事長である稲葉剛が務めています。

私たちの社会には、生活に困った人たちを受け止めるためのセーフティネットが整備されているはずですが、しかし実際には、ネットのあちこちに空いた隙間からこぼれ落ち、制度を利用できていない人がたくさんいます。

そこで、つくりい東京ファンドでは「市民の力でセーフティネットのほころびを修繕しよう！」を合言葉に、ネットのほころびを繕うための事業を展開しています。『潮の路珈琲』もホームページのオンラインショップで購入できます！

つくりい東京ファンドのマスコットキャラクターは「つくりい猫のぬいちゃん」。縫い針を持ったぬいちゃんは、セーフティネットの穴をふさぐため、ほころびをせっせと繕っています。

あなたもぜひ、ぬいちゃんの「つくりい仕事」に力をお貸しください。



【つくろい東京ファンドの活動内容】

◇住宅支援事業：

「住まいは人権である」という理念のもと、東京都中野区で個室シェルター「つくろいハウス」を運営しているほか、豊島区、墨田区、新宿区でも、空き家や空き室を活用した低所得者向けの支援アパートやシェルター、シェアハウスを運営しています。

◇情報に関する支援事業：

“生きる”を支える人を応援するメディア「マチバリー」を運営し、他の支援団体の情報発信の支援も行っています。【URL】<http://machibarry.jp>

◇こども食堂事業：

墨田区で空き家を活用した「ことといこども食堂」を運営しています。

◇居場所づくり&仕事づくり：

練馬区で、ホームレス経験者が働く「カフェ潮の路」の運営及び、フェアトレード&自家焙煎の「潮の路珈琲」の製造・販売を行なっています。



【事務所住所】 〒165-0025 東京都中野区沼袋1-9-5 沼袋カマタビル3階

【URL】 <http://tsukuroi.tokyo/>

【カフェ潮の路】 〒176-0014 東京都練馬区豊玉南1-4-2

【オンラインショップ】 <http://www.tsukuroishop.tokyo/>

【TEL/FAX】 03-5942-8086

社会慈業委員会 ひとさじの会



わたしたちひとさじの会は、2009年4月7日に浄土宗僧侶が設立したお念仏の信仰をもって社会的弱者の支援を行う団体です。浄土宗がかつて「社会事業宗」と呼ばれていたことにちなみ、「慈」の字を入れて正式名称を「社会慈業委員会」とし、法然上人の伝記にある、上人が重湯を路上の病人に一さじずつ口元に運ぶ姿に学び、会の通称を「ひとさじの会」と命名しました。寺院・僧侶による社会的弱者支援のモデルづくりのため以下の活動を行っています。

◇活動内容

- ① 生活困窮状態の方の葬送支援、及び追悼法要
- ② 浅草における炊き出し・夜回り配食・医療品の配布
- ③ 勉強会・講演会など
- ④ 寺院による米支援の呼びかけ ー災害用備蓄米・古米の活用推進ー
- ⑤ 東北被災地支援活動 ー祈りの道プロジェクト・子ども会・仮設カフェー
- ⑥ プチ修行 ーお坊さんと一緒に念仏を称える為先会ー
- ⑦ 子ども極楽堂 ーこどもの居場所づくり(子ども食堂、学習支援)ー



◇ボランティアの募集 ー心をこめてむすびますー

ひとさじの会では、自分たちでご飯を炊いて、ひとつひとつ丁寧におむすびをつくってお配りし、より多くの人とのご縁を「むすんで」いきたいと考えています。この活動にボランティアとして一緒に活動していただける方、ぜひご連絡ください。よろしくお願い申し上げます。



活動日程: 毎月第1、第3月曜日(炊飯15:00~ 配食20:00~22:00)

配食集合: 浅草吾妻橋たもとの交番付近

連絡先: 090-6115-8147 吉水岳彦(事務局長)

【URL】 hitosaji.jp

【E-mail】 hitosaji@son.petit.cc

祈りの道 気仙三十三観音霊場 復興プロジェクト



◇活動趣旨

気仙三十三観音霊場も、東日本大震災において、9つの霊場が津波の被害を受けました。お堂や管理者の住居が被災したり、観音像が流されたりと被害の程度は様々です。

ひとさじの会では、人々の心のよりどころである観音霊場を再興し、地元の方々に、亡くなった方々の慰霊のため、そして、ご自身の心の安寧を祈るためにお参りを頂きたい、また、全国の方々にお参り頂き、地域の活性化に少しでも寄与したいと考え、「祈りの道 気仙三十三観音再興プロジェクト」を始動させました。現在まで、①霊場マップの発行、②霊場HP作成、③朱印・納経用紙の作成、④講演会の実施、⑤徒歩巡礼道の整備を行って参りました。活動の詳細につきましては、下記のHPをご覧ください。



【NEW】『てくてく気仙三十三観音参り』（東海新報社、2018年）
…漫画家しまたけひとさんにより
徒歩巡礼がコミックエッセイになりました。

【URL】kesenkannon.jimdo.com 【E-mail】hitosaji@son.petit.cc

オリジナル散華(入出証)



デザイン
本秀康
鴨井猛

チケット代わりの出入証として、オリジナルの手漉き紙の散華を作成しました。散華とは、仏さまを供養するときに撒く色とりどりの花びらのことです。

作成は、高田馬場福祉作業所(障害福祉サービス事業／就労継続支援B型)に作業委託しました。作業所がもともと作っていた手漉きのハガキを利用して、そこにカラー印刷を施したものを、作業所の利用者の方々にハサミで一枚ずつ丁寧に花びらの形に切り抜いてもらっています。

散華のもとになった手漉きのハガキは、実は使用済みの牛乳パックからできています。作業所の方々が一枚ずつ、いくつもの工程を重ねて、丁寧に作ってくれた一品です。本のしおりなど、さまざまな用途にお使いください。

社会福祉法人東京都知的障害者育成会 新宿区立高田馬場福祉作業所
【TEL】03-3367-2939 【FAX】03-3367-2960
【URL】<http://www.ikuseikai-ky.or.jp/~iku-takadanobaba/index.html>

KEEN JAPAN GK(キーン・ジャパン合同会社)

〒150-0035渋谷区鉢山町13-16

【TEL】 03-6416-4808

【URL】 keenfootwear.com



<ABOUT KEEN>

KEENはアメリカ・オレゴン州ポートランドを拠点とするアウトドア・フットウェアブランドです。2003年の創業モデルでもある、つま先を保護する初めてのサンダル『NEWPORT(ニューポート)』の発表によりフットウェアシーンに革命を巻き起こし、サンダルとシューズ、陸と水、快適性と機能性、ファッションと機能といった「ハイブリッド・フットウェア」というコンセプトを築き上げました。以来、独創的かつ多機能な商品を展開しています。

地球のすべての場所を、その場所を見つけた時よりも美しくして去ることをモットーにしているKEENは、「Giving Back: 社会への還元」、「Taking Action: 市民運動」、「Reducing Impact: 環境負荷の低減」の3つのテーマを『キーン・エフェクト』と総称し、パートナー団体とともに、わたしたちの暮らす地球や社会の環境保護活動や、その市民運動のサポート、靴・支援金の寄付、靴の製造過程における環境への負荷の軽減など、環境保護活動や社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

<ビッグイシュー日本>

生活をする上で欠かせないのが足元を守る靴。公共の交通手段を使えないホームレスの方々は、長距離を歩いたり、サイズの合わない捨った靴を長時間着用することで、足を痛めてしまうケースが多くあります。フットウェアブランドであるKEENは、ビッグイシューを販売するホームレスの方々に靴を提供することで、足元からビッグイシュー日本の活動を支えています。

また、販売者さんの社会復帰のきっかけとなるような活動をサポートしており、今年の「りんりんふえす」では去年に続き、ビッグイシュー販売者さんが「イベント販売体験」として、接客&シューズ販売にチャレンジします。チャリティ物販の売上はりんりんふえす実行委員会に寄付され、運営費の一部として活用されます。



創業モデル「NEWPORT (ニューポート)」



りんりんふえす

池袋あさやけベーカリー



路上生活を経験したり、こころや身体に病気や障がいを持つ仲間と地域のパン屋さん、そしてたくさんの人とつながりはじめたパン屋です。

【URL】<http://ameblo.jp/asayakebakery>



在日ベトナム仏教信者会

日本で暮らし、働いているベトナム人コミュニティの団結を固めるとともに、ベトナム文化の伝統と民族の特色、風俗習慣をしっかりと理解するため、日本で生まれ育ったベトナムの子供たちにベトナム語の能力をつけさせ、維持し、発展させることにつとめています。

また日本に留学して困難な状況にある留学生にも支援をしています。さらに、仏法の研究や精神修行においてベトナム仏教徒を導き、ベトナムの国家や人々を発展させるのに貢献するソーシャルワークに参加し、ベトナム仏教教会が日増しに力強く発展するよう仏事の支援を行ってゆきます。

今回のイベントでもベトナム料理を提供しています。

オリジナル散華(入出証)



製作

社会福祉法人東京都知的障害者育成会
新宿区立高田馬場福祉作業所

〒169-0075 新宿区高田馬場4-10-2

【TEL】03-3367-2939 【FAX】03-3367-2960

【URL】<http://www.ikuseikai-ky.or.jp/~iku-takadanobaba/index.html>

デザイン

本秀康(漫画家、イラストレーター、チラシデザイン)
鴨井猛(イラストレーター、散華デザイン)

本イベントでは、チケット代わりに出入証として、オリジナルの手漉き紙の散華を作成しました。散華とは、仏さまを供養するときに撒く色とりどりの花びらのことです。

作成は、高田馬場福祉作業所(障害福祉サービス事業/就労継続支援B型)に作業委託しました。作業所がもともと作っていた手漉きのハガキを利用して、そこにカラー印刷を施したものを、作業所の利用者の方々にハサミで一枚ずつ丁寧に花びらの形に切り抜いてもらっています。

散華のもとになった手漉きのハガキは、実は使用済みの牛乳パックからできています。作業所の方々が一枚ずつ、いくつもの工程を重ねて、丁寧に作りくださった一品です。お持ち帰りになった後は、本のしおりなど、さまざまなご用途にお使いいただければ幸いです。



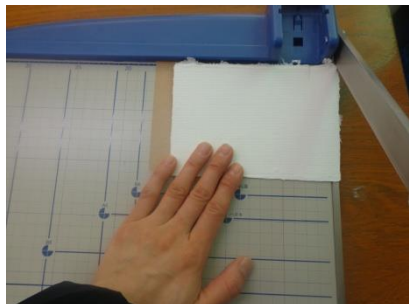
【作業①】牛乳パックから取り出したパルプをミキサーにかけるところ



【作業②】パルプから紙を漉いた後に、水分を絞っているところ



【作業③】紙を葉書サイズ大にしたものを窓ガラスに貼っているところ



【作業④】乾いたパルプを葉書サイズになるように切断しているところ



【作業⑤】葉書に両面カラー印刷したものを、散華の形にハサミで切っているところ



【作業⑥】切り終えて散華の形になったものをストックしているところ

会場案内図



➤ ざぶとん席は、お子さま連れをご優先下さい。

➤ ホール内の飲食は禁止です。

➤ 飲食はコチラか会場外でお願いします。

➤ 壊れやすい壁の装飾があります。お子さま連れの方はご注意ください。

◆ 当日の各団体の配置は変更になることもあります

お子さま連れの方も多くいらっしゃるのので、どうかお席を譲り合って、なごやかに過ごしいただければと思います。



りんりんふえすサポーター

協力

梅窓院(東京都港区)

長安寺(東京都渋谷区)

光照院(東京都台東区)

良感寺(東京都豊島区)

大蓮寺(神奈川県川崎市)

長昌寺(大分県杵築市)

長圓寺(東京都台東区)

本覚寺(青森県今別町)

法源寺(静岡県富士市)

光専寺(東京都武蔵野市)

常行院(千葉県松戸市)

心行寺(東京都府中市)

雲上寺(宮城県塩竈市)

認定NPO法人 ビッグイシュー基金

有限会社ビッグイシュー日本

一般社団法人つくろい東京ファンド

社会慈業委員会 ひとさじの会

キーン・ジャパン合同会社

池袋あさやけベーカリー

高田馬場福祉作業所

在日ベトナム仏教信者会

看板・めくり台の書

大善寺(青森県板柳町)

タイムテーブル



●一部公演

- 14:00～ 東郷 清丸
- 14:30～ 坂口 恭平
- 15:00～ 新人Hソケリッサ！ × 寺尾紗穂

●座談会

- 15:50～ ビッグイシュー座談会

●二部公演

※終演は19:00頃を予定しています

- 17:30～ アラゲホンジ
- 18:00～ ふちがみとふなと
- 18:30～ マレウレウ

【THE BIG ISSUE 座談会】

・テーマ
「ようこそ、ごちゃまぜの社会へ」

・パネラー

寺尾紗穂／シンガーソングライター、エッセイスト

稲葉剛／一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事、立教大学特任准教授

長谷川知広／NPO法人ビッグイシュー基金、ダイバーシティカップコーディネーター

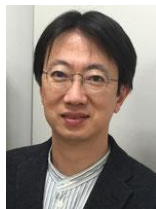
・ゲストパネラー

井上温子／NPO法人ドリームタウン代表理事、板橋区議会議員(無所属)

佐々木善勝／元『ビッグイシュー日本版』販売者、2009年ホームレスW杯出場

・コーディネーター

吉水岳彦／ひとさじの会事務局長、大正大学非常勤講師、浄土宗光照院副住職



※皆さまへのお願い※

当日、ホール内での**飲食は禁止**となっています。会場外もしくはロビーの飲食スペースをご利用くださいますよう、どうかよろしくお願ひします。

看板・めくり台の書… 大善寺(青森県板柳町)